

第3号

特別支援教育だより

令和5年 7月 3日(月)
 発行:系満市立兼城小学校
 TEL:098-994-6321
 校長:山田 浩也
 担当:特別支援教育コーディネーター

特別支援学級の一日

特別支援学級とは、小学校・中学校に設けられている学級の一つで、学習面や情緒面の支援が必要な児童が入級する学級です。1クラス8人までのお子さんが、必要な支援を受けながら学びます。兼城小学校には、知的学級「かがやき(3クラス)」、自閉症・情緒学級「ふたば6クラス(6クラス)」、言語学級「ことばの教室」があります。

特別支援学級には、学年も特性も様々な子どもたちが在籍し、毎日の時間割も各々違います。時間割や学習・活動内容に応じて、支援学級と交流学級を行き来します。特別支援学級では、教科別の指導の他に、「自立活動」という時間を設定し、一人一人の特性や苦手なことをトレーニングしています。その他、知的学級では、「日常生活の指導」や「生活単元学習」「遊びの指導」など、発達の特性に合わせた指導と支援を行っています。交流学級では、交流学級担任、専科の先生方、友達との関わりあいながら、交流及び共同学習を行っています。

☆『自立活動』では、

得意なことを伸ばし、苦手なことはスモールステップで頑張るように励みながら、自信がもてるように支援しながら学習していきます。



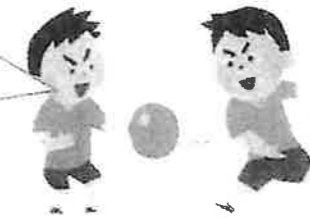
体のイメージをつかみ、スムーズな動きができるように体全体を使った学習をします。

手先の細かい作業を通して、集中することや器用さを身につける学習をします。

遊びやゲームを通して、小グループで友達との関わり方を学習します。



ルールを守って、友達とゲームを楽しんだり、協力したりすることを学習します。



計算や漢字などの基礎・基本の学習をします。



作文や絵などで自分の想いを表現する学習をします。



ここでは、知的学級(かがやき)のあるお友だちの一日の様子を紹介します。

じかんわり	教科・活動	かがやき	交流
朝の時間	メモ書き		○
1校時	生活単元	○	
2校時	道徳		○
3校時	国語	○	
4校時	算数	○	
給食		○	
清掃		○	
5校時	音楽		○
6校時	自立活動	○	
帰りの会・下校	放課後デイのお迎え	○	



○知的学級では、児童の実態に応じて下学年の学習を行ったり、単元の内容や理解度に合わせて、学びの場や時間数を決めて学習したりします。

※情緒学級や言語学級では、当該学年の学習を進めながら、場合によっては下学年の学習を取り入れたり、進路をゆったり目にしたりするなど、児童の実態に応じた指導をしています。

○学校行事や学年行事・集会など、交流学級で多くの仲間と一緒に活動する時間を大切にします。

○情緒の安定を図ることを優先し、学習内容や活動内容を変更することもあります。

○支援学級・交流学級のどちらでも、子どもたちが安心・安全に過ごせるよう配慮します。

○学校と家庭、医療機関や福祉(デイ)などと連携し、支援の充実を図ります。

令和5年度 兼城中学校「特別支援学級・通級指導教室説明会」より

去った6月26日、5・6年生希望者（保護者）を対象に、説明会が開催されました。中学校より、2名の先生が来校し、中学校進学に向けて、どのような学びの場があり、どのような学習や活動内容が実施されているのか、高校受験を視野に入れた支援対策や取り組み等の紹介や説明がありました。

その中で、保護者からあがった質問の一部と回答を紹介します。今後の支援に役立てていただければ幸いです。

Q.知的学級・情緒学級の支援の違いについて知りたいです。

A.（知的学級）

知的の遅れがあり、他人との意思疎通に軽度の困難があり、日常生活に一部援助が必要で、社会生活への適応が困難。知的指数（IQ）70未満→知的学級の対象となる。

※療育手帳を申請して取得できると、行政の様々な支援やサービスが受けられる。

（情緒学級）

自閉症又はそれに類するもので、他人との意思疎通や対人関係の形成、社会生活への適応が困難。

※原則として知的な遅れを伴わない。→中学校の当該学年の学習を実施。

※現状…本人の状態や学びの特性から学習の定着が困難なこともあるため、下学年の学習と並行しながら当該学年の学習と並行しながら当該学年の学習の指導を実施（生徒による）

Q.通級指導教室は、どのような学習内容か、教材があるのか知りたいです。小学校の通級と違うところがありますか？

A.通級は、学習上生活上の困難の改善・克服のために自立活動を行う教室です。生徒一人一人の困っていることや特性に応じて、教師とのマンツーマンと2～3人の小集団がいいのかを考え時間割を工夫しています。

Q.登校拒否等がある場合の学校の対応はありますか？

A.長期欠席への対応に関しては、小学校と大きな差はないと考えています。疾病や特性等があるなどで配慮が必要な場合は、診断書等を提出していただき、校内委員会で検討の上、個別に対応を検討していきます。

Q.中学生になると周りの目が気になって支援学級に通うことをやめてしまう子がいると聞いたのですが本当ですか？もしそうなら対応策や改善策等ありますか？

A.確かに周りの目を気にする年頃になりますが、学校生活を送るうえで通常学級の学習内容、スピードについていくのはかなりハードです。お子様の自立に向けてどの学びの場が最適なのか一緒に相談しながら進めていきます。

※入学生に関しては、年度初めのオリエンテーションで、在学生に関しても年度の終わりや初めにオリエンテーションをして学校生活の過ごし方を確認しています。

「特別支援教育だより（第2号）」でお伝えしました『就学支援の手続き』が始まっています。各種書類等の校内締め切りは、7/26（水）です。手続きに関する相談は、担任や特別支援教育コーディネーターまでお願いします。

読んでみてね！



話したくても話せない子どもたちがいます。場面緘黙（かんもく）を理解するための絵本です。

「話せない」ことが「話したくない」とイコールではないこと、「話せない時も、たくさん感じている」こと。場面緘黙の子ども達が口に出せずにいた思いを、「なっちゃん」は教えてくれます。

「どうして いつもしゃべらないの？」クラスの子どもの素朴な疑問に、やさしく答える絵本です。

☆ふたば1組で貸し出します。